



## 世界のシェアード・バリューの今

5月13・14日に、ニューヨークで開催された「シェアード・バリュー・リーダーズ・サミット 2014」およびその翌日に開催されたシェアード・バリューを推進する世界のコンサルティング会社の会合に参加してきました。最近、海外では、CSVではなく、シェアード・バリューという言い方が一般的になっています。CSRとの混同を避けるためと、CSV ファイルという別の言葉がすでに存在するためです。「サミット」は、そのシェアード・バリュー最大のイベントで、今年が4回目です。

毎年、マイケル・ポーター教授の基調講演から始まるのですが、今年は、政府・NGOとのパートナーシップ、採掘産業など最近の企業事例、製品ではなく目的によるポジショニング、投資方法の進化などの話がありました。

### 投資家視点の重視

「投資家の視点」は、今年のサミットの最大の特徴と言えるかもしれません。シェアード・バリューの推進において「投資家の理解がなかなか得られない」という声がある一方、投資家側に非財務情報を重視するなどの動きがあることを受けて、投資家をシェアード・バリューにどう巻き込むかが重要テーマとなっています。

ポーター教授の講演では、株主へのリターンが明確でないサステナビリティ・インベストメント、特定の企業のみが対象となるインパクト・インベストメントから、社会に価値を生み出しつつ株主にリターンをもたらすシェアード・バリュー・インベストメントへの進化が必要という話がありました。

また、「シェアード・バリューと投資家視点」というパネル・ディスカッションも行われ、最近、米国で業界ごとのマテリアリティにもとづく非財務情報開示のスタンダード作りを進めている SASB の CEO、世界最大の資産運用会社ブラックロックの ESG 関連投資のリーダー、ネスレのパブリック・アフェアーズのグローバル・トップによる議論が、FSG のマーク・クラマー氏によるファシリテーションで行われました。

トップにブルームバーグ元ニューヨーク市長を据え、さらなる展開が注目される SASB の話を聞いて、マテリアリティはシェアード・バリューにこそ重要であるという認識を持ちました。プ

ラックロックは、リスク側面が中心ではありますが、投資先企業の ESG に対するポリシーやそれを実践しているかを、エンゲージメントしながらしっかり評価しているようです。ネスレは、SRI 投資家と一般の投資家の両方にしっかり対応するコミュニケーションを行っています。

多くの投資家がシェアード・バリューに興味を持つのには、まだ時間がかかりそうですが、SASB などが投資家の視野を広める動きと、シェアード・バリューが実際に企業の競争力を高める事例が重なってくれば、数年先には、投資家の動きも変わってくるかもしれません。

なお、サミットでは、多くの事例が紹介されましたが、キリンの磯崎功典社長の講演や住友化学のオリセットネットの事例紹介も行われました。磯崎社長は、キリンが CSV 本部を設立した経緯や事例を説明された上で、「まだまだこれからです」というニュアンスで話をされていましたが、その率直な姿勢は、好感を持って受け入れられていたようです。また、質疑応答の中で、ブリヂストンが、屋根の上で作業をする職人がすべて危険だということで、その問題を解決するためにゴム足袋を開発したところからスタートしているなどの事例をあげ、日本企業にはシェアード・バリューが根付いているという話をされていました。これも、聴衆にとっては、印象深かったようです。

その他、コカ・コーラがブラジルで若者の雇用支援のために行っているコレチーボ、簡易な機械で途上国のコンクリートの品質を向上させ、建物崩壊の被害を減らしている「CART-AWAY」、カナダで社会問題を解決する取り組みに航空会社のマイルを付与している「Air Miles for Social Change」など、世界で様々な活動が行われています。

サミット翌日は、世界のコンサルティング会社の人たちと、シェアード・バリューの現状を共有しました。韓国では、政府が CSV フォーラムなるものを設置して、財閥企業を中心にシェアード・バリューの研究を進めているほか、優れた取り組みには、補助金も出しているようです。コロンビアでは、商工会議所がシェアード・バリューの取り組みを表彰しているということです。世界中で、様々な形で、シェアード・バリューの取り組みが進みつつあります。

【みずかみ・たけひこ】東京工業大学・大学院、ハーバード大学ケネディースクール卒業。旧運輸省航空局で、日米航空交渉、航空規制緩和などを担当した後、アーサー・D・リトルを経てクレアンに参画。CSR/サステナビリティのコンサルティングを主業務とする。ブログ「CSV/シェアード・バリュー経営論」共著「CSV経営」(NTT出版)